

令和2年度 福島小学校 学校関係者評価

番号	評価項目	よくできている			できている			あまりできていない			できていない			自己評価 4~1	考察(現在の状況における成果◎と課題●) ※番号:評価項目	評価者からのコメント (成果◎、課題●)	判定
		児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師				
① 学習指導	1 分かりやすい授業が実践されている。(短く分かりやすい話し方、ICTの活用、活用力の重視、家庭との連携)	67%	28%	18%	30%	68%	64%	3%	4%	14%	0%	0%	4%	3	1 ◎ 教師一人一人が授業力向上を目指し、授業の工夫・改善を行っている。重点支援校訪問の際には、教師間による相互評価、また指導主事から指摘された課題の改善に取り組むことで、授業力が向上し、その結果児童からも「授業が分かりやすい」という項目で高い評価を得ることができたと考えられる。 2 ● 学習意欲の項目において否定的な数値が高いことは今後の大きな課題である。学習意欲＝「授業中の発表」と捉えられがちであるため、発表にとられ過ぎずに授業後に児童の自己満足感が高まるような授業を行う必要がある。机間指導での意図的な声かけ、意欲的な取組への称賛を積極的にいながら授業への意欲を高めていきたいと考える。 3 ● 基礎学力の項目において、保護者・教師の否定的な評価が児童の評価を上回っている。家庭学習の充実・朝の活動の計画的な運用など授業以外の時間を有効に活用しながら基礎学力の定着を図っていきたく考える。 4 ◎● 「家庭学習の手引き」の周知を図りながら家庭学習の習慣化を図っている。ノーメディアの取組と合わせて、これからもより一層の周知を図りながら家庭学習の習慣化を定着させていきたい。 5 ◎● 今年度も図書室には児童の興味に応じた新刊が揃えられ、図書室を利用する児童が増加している。一方で、家庭で読書をする児童が少なく、保護者協力のもと継続的な呼びかけや週末の課題に読書を設定するなど読書に取り組ませるためのきっかけ作りが必要である。 7 ● 本年度はコロナ禍ということもあり、地域の行事に参加する機会が少なく、否定的な回答をした児童が増加していると思われる。また、親子会への入会を拒む家庭も顕著に見られるようになり、地域のつながりが希薄化しているのも事実である。今後も、PTAと連携を図りながら継続的に親子会への参加を呼びかけたり、教育活動で積極的に校外で学ぶ機会を作ったりする必要があると考える。	◎ 教師間の相互評価や重点支援校訪問での指導主事からの助言を参考に授業力改善に努めている姿勢が素晴らしい。 ● 発表を苦手とする子どもたちのためにも、少人数での話し合い活動等を積極的に取り入れながら表現力を高めていって欲しい。 ◎ 児童は学習への取組を称賛されることで、達成感、満足感を高めそれが学習意欲につながっていくと考える。今後も先生方には、意図的、積極的に声かけや称賛を行って欲しい。 ● 子ども達には、基礎・基本はもとより、「学び方」を身に付けて欲しい。 ◎ 「家庭学習の手引き」「ノーメディアの取組」等、児童の家庭学習の習慣化を図る指導がなされている。 ◎● 図書室利用の児童が増えていることは喜ばしいことである。一方で、ICT活用による活字離れ等の弊害が懸念されるため、十分配慮しながら指導を行って欲しい。 ● コロナ禍の中で難しい面もあると思うが、子ども達と地域とのつながりを継続させるためにも、子どもたちと地域住民がふれあう交流活動を計画的に取り入れて欲しい。	3
	2 授業中の児童は、積極的に発表するなど意欲的に取り組んでいる。	31%	21%	7%	39%	54%	79%	21%	21%	14%	10%	4%	0%				
	3 読み、書き、計算などの基礎学力が身に付いている。	56%	17%	4%	32%	59%	68%	9%	22%	28%	3%	2%	0%				
	4 家庭学習の習慣が身に付いている。(決まった時間以上学習することができる。)	56%	16%	33%	33%	52%	46%	8%	28%	17%	3%	5%	4%				
	5 読書活動が充実している。(朝の読書、読み聞かせ、うち読～ノーメディア、学校図書館利用)	44%	11%	11%	26%	74%	74%	16%	11%	11%	14%	4%	4%				
	6 生き物や植物を大切に心が育っている。(道徳、生活科・理科、飼育・栽培等)	66%	24%	7%	28%	63%	67%	4%	12%	19%	2%	1%	7%				
	7 地域との連携を図っている。(ふれあい参観日、くしま学ウォークラリー、宿泊学習等)	31%	15%	23%	32%	71%	77%	18%	13%	0%	19%	1%	0%				

②生活指導	8	いつも「福島小 当たり前のこと3か条」を意識させて学校生活を送らせている。	42%	14%	45%	71%	11%	14%	2%	0%	3	<p>8</p> <p>◎ 年々、「当たり前のこと3か条」が浸透してきている。月目標への位置付けや、委員会活動の取組が奏功している結果だと考える。</p> <p>10</p> <p>● 意識して行動することのできる児童も多いが、そうでない行動が見られるときがある。児童一人一人に社会性を身に付けさせるためにも、なぜ守る必要があるのかを考えさせ、地域と学校が連携を図りながら継続的な指導を行っていく必要がある。</p> <p>12</p> <p>◎● 校内清掃においては無言清掃が浸透し、一生懸命活動に取り組む児童が多く見られるようになった。一方で、家庭での取組に課題が見られるため、家庭科や学級活動の時間に、家族の一員としての自覚を深めるような学習内容を位置付けるなど、教科との関連を図った指導を行っていきたい。</p>	<p>◎ 先生方が児童理解に努めてくださっていることに高い評価をしたい。教師が児童理解に努めることが、児童をよりよい方向に伸ばすことにつながると思うので、今後も大事にして欲しい。</p> <p>● 「学校ではルールやマナーを守ることができるが、家庭や地域ではできていない」という声を聞く。学校には、子ども達に対して、家庭の一員、社会の一員としての自覚を少しでも身に付ける手立てを考えて欲しい。</p> <p>● 子ども達の基本的な生活習慣は、地域と学校が連携して育てていくものだと考える。一方で、昨今の声かけ事案の増加等で、登下校中の子ども達に気軽に声をかけない現状に歯がゆい思いもある。</p>	
	9	児童理解に努めている。	64%	37%	36%	28%	56%	64%	5%	7%				0%
	10	児童は「福島小よい子の一日」や社会のきまりやマナーを守っている。	44%	14%	7%	43%	70%	71%	11%	15%				21%
	11	児童は思いやりの心をもって友達に接している。	64%	23%	11%	30%	68%	71%	6%	8%				18%
	12	児童は清掃活動に積極的に参加している。	57%	9%	33%	28%	40%	56%	11%	44%				11%
③保健安全指導	13	児童の主体的な取組を促す手立てを明確にした体育的行事が計画されている。	79%	30%	22%	16%	65%	78%	3%	4%	0%	3	<p>13</p> <p>◎ 全校で取り組む体育的行事として、運動会や持久走、縄跳び等、児童が満足していく計画及び実践ができていると考える。</p> <p>14</p> <p>◎ 年間2回の「弁当の日」の取組を中心に、食育の指導が適切に実践できていると考える。</p> <p>15</p> <p>◎● 学校では、新型コロナウイルス感染症予防対策として、室内の換気、手洗い、うがい、マスクの着用を継続的に呼びかけ全体の意識が上がってきている。早寝・早起き・朝ごはんについては、個人差が大きく、各学級、通信で呼びかけたり、学級活動の時間を使い指導を行ったりしている。今後も、参観日の懇談会で「基本的な生活習慣」を話題に上げるなど家庭と連携を取りながら指導を継続していく必要がある。</p>	<p>◎ コロナ禍で体育的行事も制約を受けての実施だったと思うが、そのような中で児童の意欲や満足感を高める工夫がなされている。</p> <p>◎ コロナ感染予防対策を通して、健康的な生活習慣への意識が高まってきている。</p> <p>● 「早寝・早起き・朝ごはん」の家庭への啓発を継続して取り組んで欲しい。</p> <p>● 学校で月に1回程度「早寝・早起き・朝ごはん」に関するアンケートを実施することで保護者の意識を高めてみてはどうか。</p>
	14	家庭との連携の中で食育の推進を図っている。	52%	31%	31%	25%	63%	65%	12%	6%	4%			
	15	早ね・早起き・朝ごはん定着の呼びかけを行い、手洗い・うがいなどの基本的な生活習慣の定着を図っている。	48%	21%	19%	31%	61%	70%	14%	16%	7%			
	16	児童の危機意識を高め、迅速かつ安全に行動する避難訓練を実施している。	53%	25%	30%	29%	70%	67%	11%	5%	4%			
④学校運営全般	17	保護者が学校の様子を参観しやすい環境を作っている。	30%	25%	62%	71%	7%	4%	1%	0%	3	<p>17</p> <p>◎ 参観日の曜日や参観授業及び懇談の形態を工夫することにより、参観しやすい環境作りにつながっていると考える。</p> <p>19</p> <p>◎ PTA奉仕作業と運動会の場所取りのくじ引きをセットで計画することにより、参加率が高く、環境美化への意識の向上につながっていると考える。</p> <p>20</p> <p>◎● 毎月、教育相談アンケートを行い、問題の早期発見と解決に努めている。しかし、アンケート結果からは「いじめ」に対して不安感を持つ保護者も見られるため、児童の日記や日常の行動を観察しながら、児童の変容に気づき、スピード感を持って組織的に対応できる体制作りを充実させていきたい。</p>	<p>◎ PTA奉仕作業と運動会の場所取りのくじ引きをセットにして実施している事は、場所取りの安全面も確保できる素晴らしい方策だと思う。</p> <p>◎ いじめ防止の取組がよくなされている。今後も、いじめの未然防止に努めると共に、対応にあたっては担任だけに任せず組織的な取組をお願いしたい。</p>	
	18	ホームページ等や学級通信等で学校の情報を紹介している。	18%	26%	67%	70%	15%	4%	1%	0%				
	19	PTAの協力を得るなどして環境美化に努めている。	24%	19%	72%	77%	4%	4%	1%	0%				
	20	いじめのない学校を目指して努力している。	63%	13%	35%	28%	69%	65%	6%	16%				0%